第10回　日常診療経験交流会

第4分科会に歯科から6演題

11月30日に開かれた日常診療経験交流会の第4分科会・「日常診療の工夫と実践（歯科）」で発表された6演題（下表）の感想記を紹介する。

発表された演題順に簡単に触れてみることにする。

まず第1演題については、睡眠時無呼吸について深く勉強。実践的には、朝ごはんをパンではなく米食にして、よく咬んで食べる習慣をつけることで口腔周囲筋を鍛えることができ、認知症、うつ病の予防にもつながり、体内時計をくるわせない生活習慣が身につくと睡眠の質も良くなると発表された。また、演者は『ビムラー矯正』を取り入れて、子どもの成長期、その後30年を見据えての生活習慣病の予防に取り組んでいる実例を示された。

次に第2演題では「セロトニンとオーラルフレイル」という題で、セロトニン（幸せホルモンとも呼ばれる）に注目してオーラルフレイルとの知見を紹介し、臨床に生かす工夫を説明された。特に摂食、嚥下、咀嚼運動に関連しており、口腔機能の向上に役立ち、生活習慣の改善にもつながることから、セロトニンの活性化の重要性を説かれた。

第3演題は、障害者施設への口腔ケアの取り組みを通して（well-being）＝心身ともに健康で社会的にも満たされた状況にしていこうと、訪問口腔衛生にチームで心理的支援を行っている事例が報告された。

第4演題は、大相撲力士にマウスピースの着用を普及させようという取り組みを示し、歯を守るためにもマウスピースは必要なので、保険適用拡大を強く訴えていた。

第5演題は会場の雰囲気を和らげるための演出で臨床の場においての様々な「よくある！あるある！」状況をお笑いネタに工夫して発表された。

第6演題は、院内感染費用について大阪歯科協会内の調査報告がなされ、1人親方の歯科医院では今の保険点数ではやっていけない状況を解説。ぜひ次回の厚労省交渉でもこの事例を示して来年の診療報酬の大幅UPにつなげてもらいたいと感じた。

最後に、今回の分科会に参加して、これからの歯科診療は様々な方向から視野を広げて診療しなければならないと感じた。演題発表は年々質が上昇している感じが受けとれた。

（住之江区・吉田裕志）

池尻氏

田邉氏

福原氏

齋賀氏

西川氏

平尾氏

	テーマ	発表者
第１演題	睡眠時無呼吸をコントロールする事で認知症、うつ病の予防	池尻　良治氏（淀川区開業）
第２演題	セロトニンとオーラルフレイル〜歯科臨床に活かす知見と実践〜	田邉　美樹子氏（勤務医）
第３演題	障害者への半構造化インタビューから「口腔ケアによる心理的支援のあり方」を探る	福原　稔氏（吹田市開業）
第４演題	力士のマウスピース、その経緯	齋賀　史郎氏（豊中市開業）
第５演題	歯科臨床40年で出会ったfunnyな出来事、interestingな人々	西川　眞二氏（東大阪市開業）
第６演題	院内感染対策費用（歯科）についてのパイロット調査	平尾　清司氏（港区開業）

全医療機関に財政支援措置を
国と府下全自治体に緊急要望

協会は2日、府下市町村に対し、「重点支援地方交付金」を活用した医療機関への財政措置の実施、拡充を要望し、政府に対しては4日の国会・省庁要請などを通じて、ベースアップ評価料届出などの条件にかかわらず、物価高対策の緊急財政措置を、全医療機関を対象に実施するよう求めた。

政府が物価高対策などを柱とした総合経済対策を閣議決定し、医療・介護対策では、「医療・介護等支援パッケージ」として補助金を緊急措置していることから、「重点支援地方交付金」の推奨事業メニュー分が大幅に増額することが見込まれる。そのため府下の自治体に対し、医療機関に引き続き支援や助成を実施し、対象範囲、規模の拡充を求めている。

協会が2月に実施した調査では、65・6％の医療機関が、昨年1月と比べて収入が「下がった」と回答し、そのうちの41・6％の医療機関が、1割以上減少していると回答している。また、光熱費・材料費の高騰分や人件費を診療報酬改定で「補填できていない」と回答した医療機関は9割を超えていた。

また、歯科医師要請署名には、「2年に1度の診療報酬の改定は煩雑なルールが増えるばかりで実質の引き上げはありません。診療のための設備、消費税、感染予防、人件費等々と経費が膨大」「売上げ増加率を人件費増加率が超えてきており、厳しい状況が予想される」などの声が寄せられている。

歯科医院の経営改善と集患戦略
経税部が経営セミナー開く

経税部は11月16日、M&Dホールで「今押さえたい、歯科医院経営の改善と求められる集患戦略」と題してセミナーを開催し36人が参加した。

1部では税理士の井川博幸氏が事業規模別の収支をもとに解説、保険収入が5000万円までの「措置法（注1）」計算の有利性に触れ、それ以上の収入を上げて実額計算する場合は5000万円を大きく上回らなければ、むしろ可処分所得が減るケースがあるなどと解説した。次いで歯科の人材問題では、安定した雇用環境のためにスタッフとのコミュニケーションが重要であること、賃上げへの対応として「賃上げ促進税制」（中小企業庁ホームページ参照）の活用などを紹介した。また、顧問先での税務調査事例として、金属撤去冠の売却益の計上漏れや、交際費の要件に関する税務署からの指摘事項などを留意すべき点として紹介した。

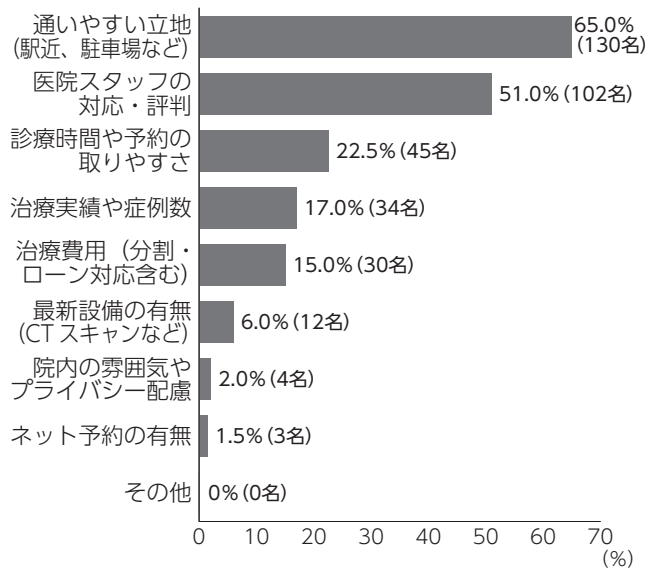
2部は医療経営コンサルタントの細羽雄太氏が登壇、集患対策では「志」「ビジネスモデル」「仕組み」の3要素を意識することが重要と述べた上、人口動態を意識した集患対策として診療圏調査の手法を紹介した。医師目線と患者目線の違い（図）や、高齢者層の集患に有利なツールの選定など、豊富な資料を基に解説した。

（注1）「措置法26条」医業を営む個人が適用でき、概算経費率を用いて所得計算をする。

患者目線での歯科医院の選び方

2．一般歯科治療を受けた患者が選定時に『重視したポイント』※複数選択可（注3）

Q　一般歯科に行く際、あなたが歯科医院を選ぶ上で最も重視するポイントは何ですか？※複数選択可



泉佐野再発見ウォーキング

日根荘・茅渟宮跡や酒蔵まつり

泉州地区　文化企画

泉州地区は11月23日、泉佐野再発見ウォーキングを開催した。出発地点のJR長滝駅を参加者9人が出発し、泉佐野ボランティアガイドの解説に耳を傾けながら、中世荘園の様子をとどめる寺社、城跡、ため池などの日根荘（ひねのしょう）遺跡や古事記、日本書紀にゆかりの茅渟宮跡（ちぬのみやあと）を巡った。そのあと、1921年創業の北庄司酒造がコロナ禍の中断から再開した酒蔵まつりに参加し、搾りたての生原酒試飲やミニコンサートなどのイベントを楽しんだ。

参加者からは、「試飲ができると聞いて妻を誘った」「時間帯もちょうど良い企画だからまたやって欲しい」などの声が寄せられた。